

“投稿の手引”

(2008年10月16日改訂)

1. 投稿形式

投稿原稿は、以下の2つPDF原稿とする。

1.1 標題ページ (原稿1枚) :

原稿1枚目は、題名(日英)、著者氏名(日英)、日本文要旨(論文・解説記事では300~450字、ショートノートおよび研究速報では約300字)、日本文キーワード約5単語、英文要旨(論文・解説記事では、100~150 words、ショートノート及び研究速報では約100 words)、および英文キーワード約5 wordsを記載する。また、脚注として、所属機関名、所在地名(日英)及び連絡先を記載する。更に、投稿原稿代表者の電子メールアドレスも記載する。

1.2 本文ページ :

本文ページは、日本文の場合には、1頁は28字×52行の左右2段組みとし、図面及び表を貼り付けた構成とする。全体の頁数は、論文の場合は6~8頁を標準とする。ショートノート及びショートノートは2~4頁を標準とする。

2. 本文の書き方

2.1 論文名のタイトル :

論文名のタイトルについては、以下の通りに記載する。

(1) タイトルの名詞は全て大文字とする。

(Figのタイトルは、通常のように最初の文字のみ大文字にする)

(2) 複数の執筆者の場合、○, ○, and ○の様に、andの前に”コンマ”を入れる。但し、二人の場合には、○ and ○の様に”コンマ”は入れない。

(3) 名前と苗字の間は半角アケル。 例: J. Mizuguchi (正), J. Mizuguchi (誤)

2.2 本文の章立て :

本文の章立て構成の仕方は、以下の通りに記載する。

(1) 章の表し方 “1. ○○”

(2) 節の表し方 “1. 1 ○○”

(3) その下の段落表現は、“1. 1. 1 ○○”あるいは“(1)”, “(b)”, “(iii)”等を用いる。但し、①(丸付き文字), VI(全角のローマ数字)等の機種依存文字は用いてはならない。

例) 1. 序論
2. 実験
 2.1 装置
 (1) 測定装置
 (2) 評価装置
 2.2 方法
3. 結果と考察
4. 結論
謝辞
参考文献

2.3 文章は当用漢字現代かなづかい(ひらがな)を用い簡明に書く。なお、本学会は異なる専門分野の会員の集まりであることに留意して用語、記述が著しく専門的にならぬように配慮する。また、①(丸付き文字), ㊦, VI(全角のローマ数字)等の機種依存文字は用いてはならない。

2.4 術語は原則として“画像技術用語集”(日本画像学会編, 改訂版2005.11.15)に、物質名はIUPACに従い原則として文部省編の“学術用語集”による。欧語名の方がわかりやすい場合には欧文つづりでもよい。なお、術語とまぎらわしい登録商標名例えばコピー(ヤ), リコピー, ゼロックスなどは日本語名、欧語名とも術語としては使用しないように留意する。

2.5 量記号、符号は慣用のものに従い、単位は原則としてSI単位に統一する。

2.6 文中、特に数式中における活字体の指定(イタリック, ゴシック等)は明瞭にする。また、添字のある文字、誤解されやすい文字、大文字と小文字の指定は一見してわかるようはっきり書く。

2.7 図、表の番号はFig. 1, Table3のように書く。写真は図(Fig.)に含める。

3. 図面・表の書き方

印刷時は内容からカラーを用いることでより理解度が高まる場合を除き白黒印刷されるので、グラフ、図において色を使用する際には色相での区別ではなく、明度での区別を考慮して作成する。但し、電子版原稿についてはカラーで掲載される。

3.1 図面の書き方

以下の注意に従って、対応の図面を本文中に作成する。

(1) 図面は全て英文とする。

- (2) 本文中での記載の仕方は、Fig. 1 等と記載する。
- (3) 図面の中での言葉の説明は最初のみ大文字とする。
例：Transfer roller, 等
- (4) 図の説明（タイトル等）は、図面の下部に記載し、文章中の最後はピリオドを打つ。
例：Fig. 1 Cross-sectional view of laser printer.
- (5) 図面の縦軸及び横軸の目盛数字は4～5個を目安とする。
- (6) 縦軸・横軸の単位記号の記載は、(mm) の様に記載する。
- (7) 図の中の罫線は削除する。
- (8) 図の線或いは記号の説明である凡例の枠は削除すると共に、凡例を図の枠線の中に入れる。
- (9) 指数関数文字は、 10^{12} の様に上付き数字にて標記する。
- (10) 文字と単位記号の間は“半角アケル”。
例：10 mm, 10 kg, 但し，%は半角空けない。
- (11) 物理量を表わす文字は“斜体（イタリック体）”とする。
例：抵抗 R
- (12) 数のべき乗の大きさを示す，n（ナノ），m（ミリ），k（キロ），等は一般に小文字で記す。但し，テラを示す“T”，やギガを示す“G”は大文字とする。
- (13) 単位記号の大文字，小文字は注意する。
例：電荷量を示す“C”，や時間の秒を示す“s”は要注意。
- (14) パラメータ名と記号及び単位の並べ方については，Surface resistivity $R(\Omega\text{cm})$ とする。
- (15) 2語以上の用語は最初のみ大文字とする。
- (16) グラフ図の枠線とデータ等を表す線との太さの関係は，枠線を少し細目とする。
- (17) 単位系はSI単位系とする

3.2 表の書き方

以下の注意に従って，対応の表を本文中に作成する。

- (1) 表は全て英文とする。
- (2) 本文中での記載の仕方は，Table1 等と記載する。
- (3) 表の中での言葉の説明は最初のみ大文字とする。
例：Transfer roller, 等
- (4) 表の説明（タイトル等）は，表の上部に記載し，文章中の最後はピリオドを打つ。
例：Table1 Optimum parameter design.
- (5) 表は基本的には横線のみで記載する（例参照）。
例：

Parameter	Charge-to-mass ratio q/m ($\mu\text{C/g}$)		
Capacity	0.7 $\mu\text{F/m}^2$ (Se)	1.4 $\mu\text{F/m}^2$ (OPC)	8.9 $\mu\text{F/m}^2$ (a-Si)
No background noise	10 - 30	6 - 35	3 - 38
Image density	≤ 13	≤ 22	≤ 53
Optimum range	10 - 13	6 - 22	3 - 38

- (6) 表の単位記号の記載は，(mm) の様に記載する。
- (7) 表中の指数関数文字は， 10^{12} の様に上付き数字にて標記する。
- (8) 文字と単位記号の間は“半角アケル”。
例：10 mm, 10 kg, 但し，%は半角空けない。
- (9) 物理量を表わす文字は“斜体（イタリック体）”とする。
例：抵抗 R
- (10) 数のべき乗の大きさを示す，n（ナノ），m（ミリ），k（キロ），等は一般に小文字で記す。但し，テラを示す“T”，やギガを示す“G”は大文字とする。
- (11) 単位記号の大文字，小文字は注意する。
例：電荷量を示す“C”，や時間の秒を示す“s”は要注意。
- (12) パラメータ名と記号及び単位の並べ方については，Surface resistivity $R(\Omega\text{cm})$ とする。
- (13) 2語以上の用語は最初のみ大文字とする。
- (14) 単位系はSI単位系とする

4. 参考文献の書き方

参考文献は以下の注意書きにしたがって記載すること。1つの文献番号は1つの文献のみを記載し、著者名が同じ複数の文献を扱う場合にも、文献番号を別として、記述すること。

4.1 学術雑誌・研究技法など

例：

- 1) 中島一浩, “最新バブルジェット技術”, 日本画像学会誌, 41, pp.159-166 (2002).

【記載上の注意】

- ※ 「著者, “題名”, 雑誌名, 巻, 頁, (発行年).」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り, 出来るだけ英文で記載する.
- (1) 著者名はフルネームで全員を記入し, 「半角コンマ+半角スペース」(,) で区切る.
- (2) 名前と苗字の間は詰める. 但し, 一字名の場合は全角一文字分空ける.
- (3) 論文タイトルは半角のダブルクォーテーション「“題名”」の間に記載する.
- (4) 学会誌の巻数(Vol.)および号数(No.)については, 巻数(Vol.)の数字のみをボールドにて記載 (例: Vol.41, No.? ならば 41).
- (5) 論文の頁数は最初と最後のページ数をハイフンにて結び, 「pp.」(単一ページの場合は「p.」) に続けて記載する.
- (6) 発行年は頁数の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(発行年)」内に半角数字で記載.
- (7) 文献の最後は半角ピリオド「.」をつける.
- (8) 文献の本文が和文であるものを英文表記した場合には, 最後(1つの文献の最後を示す半角ピリオド「.」の前に「[in Japanese]」を記載する.

4.2 学術会議予稿集(論文集)など

例：

- 2) 西眞一, 小松克明, 竹内良夫, “高効率シェアモードヘッドの開発”, Japan Hardcopy 2004 論文集, 日本画像学会, pp.89-92.

【記載上の注意】

- ※ 「著者, “発表タイトル”, 会議名, 主催学会(開催年), 頁.」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り, 出来るだけ英文で記載する. 各項目の記述上の注意事項は, 先述した[学術雑誌・研究技法など]に準ずる.
- (1) 会議名に主催学会名や開催年が含まれる場合は, 続けて記述する主催学会や(開催年)を省略できる.
- (2) 会議名に主催学会名のみが含まれる場合には, 開催年の記載は会議名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(開催年)」内に半角数字で記載する.
- (3) 開催年の記載は主催学会名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(開催年)」内に半角数字で記載する.

4.3 単行本などの出版物

例：

- 3) 井上英一, 菊池真一編, “印写工学”, 共立出版(1975), pp.5-10.

【記載上の注意】

- ※ 「著者, “出版物タイトル”, 出版社名(発行年), 参考頁.」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り, 出来るだけ英文で記載する. 各項目の記述上の注意事項は, 先述した例に準ずる.
- (1) 発行年の記載は出版社名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(発行年)」内に半角数字で記載する.
- (2) 参照頁は, pp.5-10 の様に記載し, 単一頁の場合は, p.10 の様に記載する.

4.4 特許

例：

- 4) 永井 津(日本無線), 特開昭 58-121029.

【記載上の注意】

- ※ 「発明者(出願者), 公告番号等.」をこの順に, 「半角コンマ+半角スペース」(,) にて区切り記載する. 各項目の記述上の注意事項は, 先述した例に準ずる.
- (1) 発明者名はフルネームで全員を記入し, 「半角コンマ+半角スペース」(,) で区切る.
- (2) 開出願者は主催学会名の後に半角スペースを空け, 半角括弧「(開催年)」内に記載する.
- (3) 公告番号等のハイフンは, 半角文字「-」で記載する.

4.5 英文文献

例：

- 5) D.S. Rimai, H. Yang, E. Stelter, T.N. Tombs, P. Lambert, and D.S. Weiss, “Adhesion of Silica-Coated Toner Particles to Bisphenol-A Polycarbonate Film: Effect of Toner Charge”, Journal of Imaging Science and Technology, 53, pp. 020502.1-020502.6 (2009).
- 6) N. Nagayama, N. Nakamura, and M. Yokoyama, “Pixel Image Formation on a Multi-Layered Organic Film Installed with Pixel-Like Floating Electrodes”, Proceeding of NIP20: International Conference on Digital Printing Technologies, Society for Imaging Science and Technology (2004), pp.543-546.
- 7) N. Bunce, “Environmental Chemistry”, Wuerz Publishing Ltd., pp. 1-115 (1991).

8) K. Chiba (NHK), USP-4406964 (1983).

【記載上の注意】

※ 記入項目は、上述した和文の例に準じて、学術雑誌の場合には「Author(s), “Title”, Journal, number of volume, numbers of pages, (Published year).」を、学会会議の場合には「Author(s), “Title”, Conference name, Sponsored Society (Published year), numbers of pages.」を、単行本等の場合には「Author(s) or Editor(s), “Book Title”, Publisher name, numbers of pages (Published year).」を、特許の場合には「Inventor (The applicant), The number of the patent (Published year).」を、この順に、「半角コンマ+半角スペース」(,)にて区切り記載する。

- (1) 名前はファーストネームおよびミドルネームは省略して表記しても良く、その場合にはファーストネームとミドルネームそれぞれの略称の間には半角スペースを設けない。但し、ファミリーネームの前には半角スペースを入れる。
- (2) 著者（発明者）が二人の場合には、and を用いて、全員を記載する。
- (3) 著者（発明者）が三人以上の場合には、「半角コンマ+半角スペース」(,)にて区切り、最終著者（発明者）は「and」を用いて区切る。このとき、「and」の前には「半角コンマ+半角スペース」(,)の区切りを記載する。
- (4) 特許文献については、その年号を文献番号の後に半角スペースを空け、半角括弧「(年号)」内に記載する。

4.6 Web サイト等の電子情報

例：

- 9) http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2005/pr20050127/pr20050127.html [有機薄膜太陽電池で世界最高レベルのエネルギー変換効率を達成（産業技術総合研究所）]

【記載上の注意】

※ Web サイト上に記載されている情報を掲載する場合には、その情報の真実性に十分注してとりあつかう。また記載の際には、URL 共に、情報の概要と発信元を併記する。用語解説等の Web サイトは再考文献として取り扱ってはならない。

5. 修正原稿の再提出の方法

差読後、内容修正を加え、書き直した原稿（新原稿とする）の再提出時には、新原稿を修正前原稿（旧原稿）と同様に、新 PDF ファイルとして取り纏め、旧原稿（旧 PDF ファイル）と一緒に、差読者の審査意見およびそれに対する著者の回答書を附して、事務局に電子メール投稿する。

6. 掲載可となった場合の出版用最終原稿の提出

6.1 本文ページの出版用最終原稿の形式：

投稿時の PDF ファイルの代わりに、1)本文テキストと 2)図および 3)表とをそれぞれ、別々にまとめる。

6.2 出版用最終原稿の提出

標題ページ、および本文テキスト、図、表、著者紹介用の写真（電子データ）、ならびに略歴（日本画像学会誌参照）の電子データを、学会事務局宛に電子メールにて送付する。

7. 原稿コピーの保存

著者自身でコピーを必ず保存しておく。著者校正の際、原則として原稿を添付せずに校正ズリのみを送付するので、そのコピーにより校正を行うこととする。

◎ 原稿送付先

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内
日本画像学会事務局内 編集委員長 宛
(日本画像学会 TEL: 03-3373-9576 FAX: 03-3372-4414)

◎ 掲載料と論文別刷代金（2007年2月10日発行号より実施）

論文掲載料は1頁2000円とする。著者のうち希望者は別刷を購入できるものとし、別刷代金は50部を単位として次式で算出される：

$$\text{別刷代金} = (4000 \times m - 2000) \times \text{頁数} + 2000 \times m \quad (\text{単位: 円}), \quad \text{ここで } m = 1 + (\text{部数} - 50) / 100.$$

頁数	50部	100部	150部	200部	250部
1	4000	7000	10000	13000	16000
2	8000	11000	16000	21000	26000
3	8000	15000	22000	29000	36000
4	10000	19000	28000	37000	46000
5	12000	23000	34000	45000	56000
6	14000	27000	40000	53000	66000

カラー印刷代金は1頁3万円とし、編集委員会が必要と認めるものに限り無料とする。